

News Letter

発行

特定非営利活動法人子どもシェルターモモ
〒700-0861 岡山市北区清輝橋1丁目2-9
電話・FAX 086-206-2423

CONTENTS

- ・巻頭言 1
- ・インタビュー「人」 2-3
- ・令和6年度通常総会報告 3
- ・「モモの家」通信 4
- ・「あてんぼ」通信 4-5
- ・「学南ホーム」通信 5
- ・「アフターケア」通信 5-6
- ・事務局だより 6

表紙絵の言葉 内村 暁

「嵐を呼ぶ娘」
ふきげんちゃんがやってくる
カエルのコーラスしたがえて
ふきげんちゃんがやってくる
雷さえもだまりこむ
大きな地団駄ふみならし
ふきげんちゃんがふきげんに
すっかり飽きたその後に
空には大きな虹かかる

巻頭言



理事長退任のご挨拶

前理事長 東 隆 司

令和5年度をもって理事長を退任しました。

平成20年9月のNPO法人設立時から子どもシェルターモモの理事長として活動してきましたが、昨年、後期高齢者となり、理事長就任後15年目を迎えたので、これを機会に退任を決意しました。

還暦を迎えた年に、子どもたちのために少しでも役に立てればと思い、新しいことに挑戦するつもりで子どもシェルターの設立に参加しました。苦しいことや悲しいこともありました、なんとか頑張れたのは、ご支援・ご協力をくださった皆様のおかげだと思っています。

令和6年度には、井上雅雄弁護士が子どもシェルターモモ理事長に就任します。引き続き、子どもシェルターモモに対してご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。



新理事長のご挨拶

新理事長 井上 雅雄

この度、新理事長に選任されました井上雅雄です。重責でございますが、役員、職員、ボランティア及び賛助の皆様と共に、子どもたちそれぞれの多様な形での自立を応援していきたいと考えております。子どもシェルターモモに対するこれまでと変わらぬご支援・ご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。

子どもシェルターモモは、平成20年の設立総会（平成21年3月登記）から15年を経過しました。今期、シェルターの早期再開、社会的養護自立支援拠点事業の受託、社会福祉法人化等の課題を着実に進めたいと考えています。皆様の意向を聞きながら、子どもシェルターモモのこれまでを振り返り、これからを考える15周年記念行事ができればいいなと夢見ています。それぞれの子どもの個性を尊重し、子どもを中心としつつ、スタッフの研修やケアにも留意して、災害や事件のない穏やかな1年になることを祈念しています。

特定非営利活動法人
子どもシェルターモモ
前理事長／現理事

東 隆司さん

子どもの人権を守りたい!! 岡山に子どもシェルターを 立ち上げ15年目です。

よく勉強した子ども時代

3人兄弟のまんなかで生まれ、子ども時代は地元の総社の里山でよく遊んでいました。高校教員だった母親が岡山市内の高校へ転勤したため、小学校3年生から岡山市に移りました。女性教員が55歳定年時まで仕事を続けるのは難しかった時代に、母親は定年間近まで勤めあげ、その後も短大で教えるなど、何ごとにも頑張る人でした。その影響でよく勉強し、学校では成績優秀でした。

国鉄に勤務していた父親は、明治生まれの厳しい人で、叱られるときはゲンコツで殴られました。弟を泣かせたりすると、兄であるという理由だけで叱られたので、理不尽を感じ、その場面がフラッシュバックすることがあります。

そんな経験をしたにも関わらず、一度だけわが子に手が出てしまったことがあります。その時、妻に強く注意されたのを今でも覚えています。体罰は絶対によくないと反省した思い出です。

わが子の制服問題が子どもの人権に関わるきっかけ

司法試験に合格して検事になり、2,3年ごとに転勤する生活を送るようになりました。家族はその土地にやっと慣れた頃に引っ越すので、負担をかけてしまうことや単身赴任をして家族と別々に暮らすことも嫌だったため途中退職し、岡山に戻り、弁護士になりました。

それまで、子どもたちは制服のない小学校に通っていたので、岡山の小学校の制服には違和感がありました。子どもの足のためを考え、ひも付の靴を履かせていたところ、「きまり」を理由に注意を受けたことがきっかけになり、制服問題に関わるようになりました。PTAの意見をまとめ校長に制服の廃



止を申し入れましたが、私服になると貧しい家庭の子どもが惨めな思いをすることの理由で受け入れてもらえませんでした。

子どもシェルターの必要性

弁護士会では、県内の中学校の丸刈り校則の廃止を求め、県内の中学校や教育委員会に働きかけをしました。

少年事件の付添人活動をするうちに、子どもシェルターの必要を感じるようになりました。

養護施設で事件を起こした子どもは、行き場がなくなり、少年院以外に受入先がありませんでした。

そんな時に、東京でカリヨン子どもセンターを設立した弁護士の講演会を岡山弁護士会で開催し、活動を紹介するビデオ上映をしたところ、子どもシェルター作りに賛同する人が集まり、2008年9月、全国で4番目となる子どもシェルターを設立できました。

モモで関わった子どもたちとの思い出

虐待を受け、自分のことを、ひきこもりで役立たずと言っていた少年が、モモの運営する自立援助ホームで生活するうち、自尊感情を取り戻し、正社員として仕事をするようになりました。

嬉しかったこともたくさんありますが、おとなの力が足りず、子どもの気持ちを支えきれなかったこともたくさんあります。法人の長として厳しい決断を迫られることもありました。

それでも理事長を15年続けられたのは、理事・職員の頑張り子どもシェルターを必要とする子どもの存在ではないかと思っています。

子どもシェルターを運営するようになる前と比べると、私自身ずいぶん寛容になったと思っています。

人に対する呼びかたも、人権を考えるうえで重要だと思っています。「～君」・「～さん」と呼びかければ、自分自身の相手に対する見方・接し方も変わります。親しみを込めるつもりで下の名前で呼び捨てることもあると思いますが、呼ばれる側の受容がなければ、上からの目線で相手を見下しているようにも受け取られます。

わが子に対しても、「～さん」と呼んで、敬意を払っています。

頼れるおとなを見つけてほしい

子どもシェルターを始めたころ、子どもたちには、将来、税金をきちんと払える大人になって欲しいと思っていましたが、今は思わなくなりました。

それよりも、子どもたちには困ったときに他の人に相談できるようになって欲しいと思っています。

他人に迷惑をかけるなどといわれて育てられ、自己責任が当然とされている社会では、虐待を経験しておとな不信になっている子どもは、困ってもおとなに相談しようとはしません。

生きていく限り、他人に迷惑をかけることは仕方がないこと、モモが子どもたちに対してできることは限られています。だから、子どもたちには、困ったら頼れるおとなに相談できるようになってほしいと思っています。

これからやりたいこと

総社にある実家近くの里山の雑木を切ったり、下刈りをして整備したいと思っています。子ども時代の自然の中での楽しい記憶をたどっているのかもしれない。

(文責：笹田)

令和6年度通常総会開催

～子どもの権利擁護を基本に置いた運営を～



6月6日(木)
午後5時30分から
きらめきプラザ2
階研修室で令和6
年度通常総会が開
催されました。議
長に市場恵子さん

を選出し、議事が進められました。

令和5年度の活動報告で、東理事長から、「認定NPO法人格」の失効や、子どもシェルター「モモの家」の一時休止など、法人を運営していく上で困難な課題を抱えたこと。また、職員と理事で子どもシェルター全国ネットワーク会議が作った「子どもシェルター運営指針」、厚生労働省が作った「自立援助ホームの運営指針」を読み合わせ、その後「シェルター」「自立援助ホーム」「アフターケア」のチームをつくり、これまでの活動を振り返り、モモの理念と、運営指針作りを行ったこと。明文化するまでには至らなかったけれど、困難を抱えた子どもを真ん中に据えて、連携の輪を広げながら、おとなが

手をつないでいく運営をしていこうという共通認識を持てたことは意味のあることであったと、報告されました。

令和6年度は、①子どもの権利擁護を基本に置いた運営。②子どもシェルター「モモの家」の再開。③ホーム長会議の設置。④自立援助ホームに自立支援担当職員の配置。⑤アフターケア事業の拡充 ⑥ 研修の充実 ⑦ 社会福祉法人化に向けて始動 の7つを進めていくことが承認されました。

令和6年度の理事は、6名の方が辞任、新しく2名を加えた15名が提案され、満場一致で承認されました。

これまで15年間理事長に就任し重責を果たしてこられた東隆司さんが理事長を退任されるという意思表示をされ、総会后、理事の互選で井上雅雄さんが理事長に選ばれました。

すべての議事終了後、それぞれのホーム長とアフターケア責任者が1年間、子どもたちの自立に向けて粘り強く関わってくる中での発見や喜び等が報告されました。

「モモの家」通信

新緑の緑が濃くなり、風の中に柑橘の花の甘い香りを感じる季節になりました。

昨年11月から日常の業務とは別に、「子どもシェルター運営規程」の改定をするために理事の方々と職員で話し合いをしました。初回は「子どもシェルター」の活動や当初の思いなどの振り返りが中心でした。

たくさんの意見が出たのですが、一部ご紹介すると「おとなと子どもが対等であること」「心の回復の場が必要」「ひとりぼっちにしない」「あなたのままでいいよ」「あなたは大切な人」「希望が言えるようになるよう支援する」「楽しい経験をしてもらおう」などです。2回目以降は「子どもシェルター運営指針」を読み込みながら「運営規程」を見直していきました。この運営規程はモモの理念を具体化したものにと、検討会は毎月1回、2月まで計4回開催されました。回を重ねるごとに運営規程は深く討議され、理念を再確認する良い機会となりました。

モモの家では、夏に向けて夏野菜を何種類か職員が植えました。天候にも恵まれ、すくすくと日を追うごとに成長する姿は頼もしくもあります。大きくなっていく夏野菜の世話をした時など、「大きくなったら子どもと一緒に収穫できたらいいね」「苦手野菜かもしれないけど自分で収穫したからと言っ

て食べてみるチャンスになるといいね」など「○○○だったらいいね」と子どもと同じような感覚で時間を過ごすであろうことを想像します。

家庭などで安全に暮らすことができずシェルターに繋がった子どもにとって、退居後夏野菜の収穫や日々の生活の中で、私たちと同じような感覚で時間を過ごせることはないかもしれません。また「モモの家」で過ごす時間は短く、同じような感覚で時間を過ごしたなと思えることもないかもしれません。ですが、子どもを個人として尊重し、その思いを受け止め、寄り添い、見守っていくことで、いつか同じ時間を過ごすことができるお手伝いが、微力ながらできたらと思っています。

「モモの家」は7月から4名のスタッフで再スタートいたします。
(文責：NY)



成長中の夏野菜

「あてんぼ」通信

新学期になり子どもたちも春を感じているようで「桜見に行きたい」と言ってみたり、「新入生が入ってくる」と意気込んでいたり、少しお姉さんになったと感じているのかなと思わされます。3月に無事高校を卒業して退所していった子どもがおり、他の子も何かしら吸収し、少しずつ進路や将来を自分で考えていっているような気もしています。

あてんぼでは現在5名が在籍しています。2月には、バレンタインチョコ作りがあてんぼの台所で繰り広げられました。パティシエの学校を目指している子だったので、手作りと言っても凝った作り方を貫いていました。イチゴの粉末を使ったラングドシャ（フランスの焼き菓子）の生地でハートを型取り花びらを、抹茶の粉で色付けしたラングドシャは葉っぱに、茎は棒に生地を巻き付け、バラの花を成形したものを見せてくれました。それからオレンジ

を砂糖で煮詰め、チョコレートをコーティングしてオレンジットを作っていました。

自信がなさそうに職員に相談してくる姿も見られましたが、できたものは見事なものでした。一生懸命寝る時間を削って作る様子にとってもパワーがあるなと感じました。「こんなのもらったら、一生懸命作ったって伝わるよー、絶対嬉しいわー」と伝えると、「これくらい全然」というような謙遜する返事が返ってきました。こうやって人とのやり取りを何度も繰り返し、経験していった、自分を表現したり相手を理解したりすることでこれからの彼女が作られていくのかなと思いました。

雛祭りには職員でチラシ寿司を作り、ひなあられを用意しました。夕食を見て「ひな祭るか、今日」と職員に言ってきた子がいました。季節感を感じ、これからの何かの役に立てたら、また、思い出と

なってくれたらいいなと思うばかりです。

子どもたちはこれからも様々な経験を積んでいくと思いますが、その中でも人との繋がり大切さをたくさん記憶していったほしいなと思います。日々、職員が子どもたちの『今』を語り考えていくことができる環境で、私もそっと支えていくことができればと思っています。

(文責：伊澤)



バレンタインチョコ作り



雛祭りのちらし寿司

自立援助ホーム

「学南ホーム」通信

新年度を迎え、学南ホームでは子どもの入れ替わりがありました。1人退所し1人新しく迎え入れ、現在5人が暮らしています。通学、アルバイトなどを行いながら充実した生活を送っています。昨年度から引き続きイベント事にも力を入れており、3月には身体を動かすことを目的に全員でバスケットやキャッチボールを行い、外でおにぎりなどを食べました。また庭でたこ焼き、焼きそばを食べるなどのイベントを行いました。たこ焼き作りでは、「黙々とする作業が好き」と率先して焼いてくれる子もいました。

イベント事を通して、普段とは一味違う空間で垣間見える彼らの行動、ふるまいなど、ホーム内での生活だけでは分からないところが見えてくるきっかけにもなっています。また、子どもたちの経験の不足を補う機会にもなっていると感じます。子どもから「食べたことがない、やったことがない」等の声を度々聞くことがあります。そのような声は経験のなさゆえの言葉だと感じています。何かを体験、経験をすることで知る機会や自分で物事を考え行動する力にもなり、それが自信にも繋がり新しい事へチャレンジをする原動力になっています。このようなイベントは、職員の新しい発見や気づきにも繋がっているため、今後も行っていきたいと思いまし

た。

私事ではありますが、学南ホームで働くようになってもうすぐ一年が経とうとしています。最初は「しっかりとできるか」など不安な気持ちがありました。何を行うにも初めての体験で、子ども・スタッフから学ばせてもらっています。様々な人の支えや先輩方の話を聞くことで、知識を深めることが出来ました。大変な事も多いと感じてはいますが、それと同時にやりがいのある仕事だと感じています。まだまだ若輩者ではありますが、皆様のお力をお借りしながら切磋琢磨していきたいと思っているので、よろしくお願いします。

子どもたちが過去を振り返ったときに、学南ホームでの出会い・経験を思い出して「よかった」と思えるようなホームにできたら、と想いながら日々暮らしています。

(文責：南埜)



たこ焼きを食べる少年たち



バスケットをする少年たち

アフターケア

アフターケア「en」通信

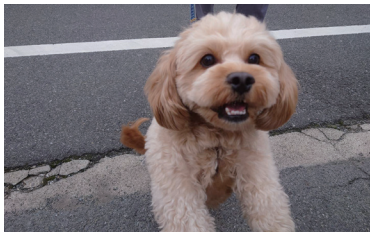
皆さんは「～たん」という言葉をご存じでしょうか。「たん」は、「担」と書くことが出来、「～」のところには、その人の好きなものや人が入る、

とのこと。

先日来た子どもは大好きなアイドルグループのメンバーに対する自分のことをそのように評して話し

ていたのです。例えば今なら「大谷翔平担」、年配世代だと「長嶋茂雄担」「イチロー担」などを使えそうです。～の担当、という意味から来たようです。少し前には「推し」「推し活」などという言葉も出てきました。新しい言葉を次々と繰り出して、楽しそうに話す子どもたちの前に座って、時には「ごめんね」と言って話の途中にちょっと入り、その使われている言葉の意味や使い方を尋ねます。

お互い意味が分かり使い方を共有すれば、どんどん使ってお互いの間に楽しい時間が流れます。小さい子が言葉を獲得して使い始めるときにはそんなワクワクした感情が流れているのかもしれませんが、アニメで使われている言葉などすぐ真似するのは、ただ単に「こんなときに使えるな」と思いながら、その場面



近所のぶんちゃん！
何を隠そう私はぶん担です

にその言葉がハマる楽しさを味わっているのかもしれないな、と思いました。

少し前にテレビで「舟を編む」というドラマが放映されていました。出版社の辞書編集部で働く人たちを取り巻くドラマですが、ある回は、「からかう」という言葉をめぐる話でした。母親は、愛情を持ってその言葉を子どもにかけたが、子どもはそれを自分に対する否定として受け取ったのです。そのため親子間に長年の溝が出来ていました。一般的に「からかう」とは、軽い気持ちで怒らせるようなことを言う、という意味ですが、山梨の方言では違う意味があるそうです。言葉は生きていて、時に使う人なりの意味を含んでいます。

モモに来る子どもたちと話すとき、今時の言葉で遊ぶように楽しく会話することも大切にしつつ、またその人の言葉を意味や経緯、思いなどと一緒に聞けたらいいなと思っています。私自身の中の言葉とは別の解釈や世界があるのかもと、思いを巡らせつつ。
(文責：易)

事務局だより

**赤い羽根共同募金～「地域から孤立をなくそう」ささえあいプロジェクト～
で2,200,000円！！**

ご協力くださったみなさま
本当にありがとうございました。

**【イオン黄色いレシートキャンペーン】
レシート総額の1%：33,900円の
ご寄付を頂きました！**

毎月11日にBOXの前に立ち
モモのことを宣伝することも始めました。

Amazon欲しい物リストからのご寄付

Amazonの「欲しい物リスト」から全国各地の方々から沢山のご寄付をいただいております。ご寄付くださいました皆様、本当にありがとうございました！



職員紹介

6月より事務局へ入職しました中野恵子（なかの けいこ）です。広報にも力を入れていきたいと考えておりますので、良いアイデア等ありましたらご意見いただけますと幸いです。よろしく願いいたします。

編集後記

「室内にいとクーラーが効きすぎて寒かった」「屋外に出ると暑い」という体温調整が難しい季節です。こんな話をすると、「夏でも湯船につかるといいよ」と勧められます。40℃のお湯で10～15分ほど肩までつかると夏バテ解消になる様です。ゆっくりとお風呂を楽しむのは冬だけではないのですね。

(文責：東)

- ご寄付は金額の多寡に関わりなく下記へご送金頂ければ幸いです。

郵便振替口座 01370-4-52835 特定非営利活動法人 子どもシェルターモモ

(ご送金の際はお名前・ご住所・ご寄付である旨ご記入いただければ幸いです。)

この広報誌は(株)ベネシードの支援を受けて作成しています。